

第1回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会まちづくり部会議事録

- ◆ 開催日時 平成26年5月23日(金) 18:30～ 20:00
- ◆ 開催場所 第2委員会室
- ◆ 出席部会員 部会長 中原 義勝
副部会長 渡部 雅子
部会員 山田 正幸
松本 崇之
田中 寛志
稲葉 一彦
川島 雅司
成田 育磨
堀井 貴之 (市庁内検討委員会 部会長)
【総務部次長】
沼田 久人 (庁内検討委員会 副部会長)
【市総務部企画調整 G 総括主幹】
- ◆ 欠席部会員 部会員 工藤 隆行
- ◆ 事務局 【兼】沼田総括主幹、上野企画主幹、西川原主査、菊地主査
- ◆ 議題 「第6章担いあうまちづくり」に関する考え方について

◎市庁内部会副部会長兼事務局

司会進行は部会長にお任せしますが、これまで2回ほど市民検討委員会全体部会を開催し、進め方をお話ししてきたとおり、体系図の検討にすぐ取り組むのではなくて、登別市のまちづくりは今後どうあるべきなのかについて、2、3回程度お話ししていただき、皆さんに人となりを含め、理解していただいた上で、体系図の検討に入りたいと思います。

昨日開催された部会の中で、体系図は直せないのだろうと聞かれましたが、これまでもお話ししてきたとおり、図の一番左の部分は基本構想からの記述なので直せませんが、右の方は理由があれば直せますという事ですので、行政から素案を出して、中身については直せないというような類のものではありません。

会議での発言ですが、これまでも話しましたし、部会長、副部会長会議でも話したとおり、基本計画を市民と一緒に行政が作っていく、この場については、要望の場ではございません。

「行政は何でやらないんだ」、「行政がやればいいんだ」という話ではなく、こうあるべきだという意見を共有しながら、ではどうしたらいいんだという前向きな意見を頂きたい。

今後も会議には、庁内検討委員会の部会長、副部会長も必ず参加しますし、事務局も出席し対応いたします。

会議の進め方ですが、今日から2、3回はざっくばらんにまちづくりに関する思いをお話しいただきたいと考えています。

議事録に残したくない発言であればお伝えください。

お話をしていく上で、基本的には人の発言を全否定はしない、長々発言をしないなど、面白くない場にはしたくないと思います。

登別市をどうしたいのか前向きな意見がほしいと思います。

これ以降は部会長に進行していただいて、いろいろなテーマを見つけていきたいと思います。

それでは部会長、お願いします。

◎部会長

それでは私から、参加したきっかけなどをお話ししたいと思います。

所属している団体は市民憲章推進協議会から推薦を受けました。

そこを意識しながらとも思いましたが、そのような考え方ではこの章の網羅された内容は難しいと考えている。

今までの経験を、まちに対する思いをつなげていきたい。

個人的にはいろいろなところで活動しているが、私が所属しているまちづくり団体でも人間形成ができていないと最近特に感じている。

いろいろな活動をやっていると、素晴らしい方がいるなど活動を通じて感じているものの、私に言わせると魂が入っていないというか、だれかがやってくれるという考え方の人が多いように感じる。

だからと言って、私がすべてを立派に全うしているかと言えばそうではないと思いますが、そういう人が多いと最近強く感じる。

やはり、人づくりを広めていかないとまちの発展につながらないと思うし、一部の人たちがやるのでは意味がないと感じている。

そう意味でいうと協働のまちづくりのテーマは第2期計画にもあるが、そのところを、人づくりをしながら考えていきたい。

今回いただいた資料も、自分に関係のあるところを見たが、そのようなことを感じた。

◎部会員

まちづくりというと簡単に言えるけど奥が深い。

今の登別のまちを考えたときに先が見えない。

登別のまちをどうしていきたいのかよく見えない。

結局、何年後には人口がいくら減るといえるのは理解できるが、増やすことを考えているのか。

働く場所とかまちの魅力を上げて、登別に住んでみたいというような取り組みを具体的にどうするのか。

働く場の確保のため、企業誘致とかがあると思うが、見えてこない。

目先のことはやろうとしているのだろうけど、今までやってきたことが正しいと判断するのか疑問である。

今まで取り組んできた1、2期の基本計画は間違っていたのではないか。

3期計画で、このまちを変えるような思い切った転換をすべきと考える。

行政から提供されている体系図素案で、変えられないものがあるという制約はいかがなものかと思う。

◎市庁内部会副部長兼事務局

体系図の右の部分については、事務事業を参考程度に記載しているものなので、変える変えないというものではないですし、一番左の部分は市民とともに考えた構想の部分ですので変えることができないと言っているものです。

◎部会員

計画として捉えているところは、良いところを捉えている。

だけど形として見えてこないのが、思い切った方向転換が必要と考える。

観光都市というのであればどのような取り組みが必要なのか、温泉だけではダメなので、他に魅力のある場所をつくらうかですとか、またどのように市街地にも人を誘導するのか。

◎部会員

市民自治推進委員会の会長をやって、みんな基本的にはまちを良くしたいという思いはある。

ただ、手段、手法がわからない。

自分の思うところのみに専念してしまっていて、つい声が大きくなってしまったら相手の意見を否定して会話が成立しない。

共通認識として、まちを良くしたいという気持ちは市民も行政も変わらない。その行動を見える形にする方法論として、まちづくりボランティアやサークルなどからアプローチする方法もあるし、このような委員会で貢献する手法もある。

ただ、どうしたらそれが具現化するのか、最終的には議会判断や行政判断でうまくいかない場合もある。

理念論にフィードバックされて終わってしまうのは本意でない。

一つでいいから具現化できるテーマがないのかという気持ちも半分ある。

会そのものが苦痛だという事ではなく、会を重ねた中でこうなりましたの部分が一番大事、それは大義名分が伴わなくてもいいから、どんな小さなことでもいいから、この会を通じて得られればまちづくりのきっかけになる。

一緒にできてよかったよねというものがあれば、行政も含めて思いの共有ができる。

精神論もいいけど気持ちを共有できないと意味が無い。

共有ができないと、活字になった文字があるだけで、その思いをいかに共有するかだと思う。

◎市庁内部会副部長兼事務局

行政が作っても、市民が作っても、誰が作っても、誰がやるのというのがそれが一番難しい。

◎部会員

体系図を作りながら、考え方でぶつかる部分もあるけど一緒にやっていきたい。

◎部会員

基本計画の策定は第1期の時に携わりました。

登別市が目指すところは何なのか、はたして観光なのか、それが違うという事であれば、なんなのか。

基本的には何かを目指すものを作っていかなければならないのだろう。

私は団塊の世代のど真ん中、私たちが不安に思っていることは、今の高齢者というのは、まだ良い時代にいる。

僕達が後期高齢者になった時どのような時代になっているのだろうか。

人口が平成45年には3万6千台に落ち込むだろうという推計があるが、高齢者の数は大きく変わらない、支える人間がいなくなる、誰が支えるのだろう。

年金の支給年齢も上がっていく、70歳支給も考えられる、その年齢まで働くことはできるだろうか、働く場所はあるのだろうか。

僕達は見捨てられるのだろうか。

その様な状況から、登別は何を目指していくのだろうか、まちの発展はまず見込まれないだろうし、観光のみで食べていけるとも思えない、かといって他の産業はない。

そんな時に我々の世代はどうなっていくのか。

今の高齢者はなんとか年金で食べていけるが、それがなくなってきた時にどうなるのか。

また、室蘭にも病院などで頼っている、室蘭も人口が5万人台まで減っているのではないかと考えると、広域で考える必要がある。

第1期の時にはそのような考えがないので、この計画はどのようなまちを目指すのだろう、そのような部分が無い。

担いあうまちづくりということで、担い合うと言っても限度があるので、このまちは何をを目指すのかが必要と、この計画を見ながらそう考えています。

◎部会長

この問題については、ぬくもり部会で検討していくのか。

◎市庁内部会副部会長兼事務局

他の部会員の方も言っていたとおり、働く場所がないとか登別市の魅力はどこにあるのかなど、他の部会でも同じような話が出ました。

その中でも、第1次産業に従事されている方もいましたので、1次産業でどう魅力を増やせるのか、雇用の場を増やせるのかというお話をしたときに、例えば漁業権も簡単に増やすことはできなく難しいですとか、現状を聞くと難しいという話になりますが。ただ難しいと言っているだけでも始まりませんので、施策でどうするのかということになる。

産業クラスターという言葉聞いたことがあるかもしれませんが、観光を軸にして様々な産業が観光に結び付きながら、産業全体の活性化を図ろうかという内容を第2期計画では取り組みましたが、結果としてはなかなか難しいということとなった。

とは言え産業クラスターについては一定の成果もあったので、第3期計画では字句にしないで、それぞれの商工業だとか、観光、農業、漁業をどう活性化していくのかということ、行政でも検討している。

お示ししている体系図も、市役所もただ字句の整理をしているのではなく、もう一度様々な部局が集まって、これでいいのかとやり取りをしている。

まちづくり部会についても、今お示ししているものから、結構変わっている。

その内容については、体系図のお話を始める時に今このように変わっているとお知らせします。

現在配布した体系図もたたき台です。行政もこれから検討していきますし、市民の方も検討していただきたいと思えますし、基本計画とは夢ばかり追いかけても仕方ないですが、夢の部分も必要ですし、ある程度現実を見なければならぬなど兼ね合いがむずかしいものです。

特にこのまちづくり部会は、具体的なものよりも理念的なものが多く、では何をやるのだろうかという側面がある。

また、先ほどお話のあったとおり、担いあうといっても限界がある。

これから高齢化が進展する中で、市民との協働のまちづくりはどうするのかというお話をしてほしい。

◎部会員

自分は、このような話し合いに出たのは初めてですが、このように計画が作られているというのも初めて知った。

こんなに時間をかけて、こんなに先のことを考えて、こんなに時代が変わるのが早いのに、こんなに先のことを、今時点で基本を決めて何を今やっているのかなと思う。

こんなことをやっても、時代が変わればついていかなければならないのに、人口も減るし、先を見ればすぐわかることなのに、何を今やっているのかと思う。

他の皆さんは、行政に携わっているので、そのような感覚がわからなくなってきた。

自分の仕事は大部分が女性なので考え方の次元が違う。

結局はある程度、こうやらなければならない流れが決まっていて、僕らがなにか言っても何かできることがあるのかなと思う。

福祉も雇用もあるのかもしれないが、果たして市民が満足できているのかと思う。

例えば、温泉に入りたくても高い、登別市民が温泉に入っている人が何人いるのかなと思う。

市民が満足できない登別温泉で何が観光なのかなと思う。

若いお母さんたち、若い人たちを育てなければまちの基盤が育たない、そのような人たちが満足するまちなのか。

例えば、医療だとか教育費も中学生ぐらいまで、無料でもいいのではないかと思いますし、リスクはあるかもしれないが、そういうまちに住みたい人は多くいると思う。

財源がないと考えていたら、物事先に進まないし、箱物を建てるだけが行政でないと思う。

皆さんはここに長く住んでいると、これがあたりまえだと思うかもしれないけど、違和感を感じます。

◎部会員

今のお話はすごく理解ができる。

市議会議員の話ですが定数が21から19ですか、19もいない、5万人の人口でこんなにいない、15人でいい。

浮いたお金で、まちづくりの形に見えるものに利用してほしい。

今の議員ははたしてどうなのか。

一番不思議なのが税収のことを考えると、近隣のまちには道の駅があるのに登別にはない、若い人の雇用も考えられる、できそうなものから、身近なものから手につけるべきと考える。

今回、計画の策定に参画するのであれば実現できそうなものもいい。

まちの状況としては、この6月で飲食店が2件やめるそうです。

飲食店でも次の担い手がいない、継続してこの街でやっていけるのか。

登別の会社はすべて同じだが、産業で雇用を守っていくことに目を向けなければならぬ。

今は、団塊の世代の方が人口の多数を占めているものの、今後は人口の絶対数が少なくなっていく。

少子化というよりまちに人を残していくのが必要、まだ自衛隊があるから何とかなっているが、まちに繰り出して飲みに行ったりするようなものがない。

室蘭も一緒だが、我々の業界の目線で言うと、夜の街が元気ない。

市長が青年部で何かやってくれと言うが、まず市長が行政のトップとして活性化を模索するべき。

やはり行政が動いて官民の足並み揃う。

官民が一体となって人口の問題をどうにかしていかないと前に進まないと思う。

難しいと思うけど、登別温泉は独特なので別な地域、幌別も鷺別もそう、垣根を取り払っていかないと、このまま悪いままになってしまう。

◎部会長

人口の問題は根底だと思う。

◎部会員

経験、知識が浅いので聞き苦しい点ございましたら、ご了承ください。

協働のまちづくりというのは、ここに出てきた理由なんですけど、他の方たちと交流できる、お話できるのが大切なんだと思う、これもひとつのまちづくりだと思う。

僕自身知りたいなと思うのが市の予算の優先順位というのは、どのようにな

っているのか。

計画の全部を見ているわけではないが、第2期計画を見た限り、今を大切にされているのかなという印象を受ける。

例えば、高齢者の人口が多いということで高齢者福祉を大切にしている印象を受けたがどうなのでしょう。

◎市庁内部会副部長兼事務局

10年先の計画をつくるのはどうなんだろうという意見もあるが、10年先は思いのほか、すぐに経過してしまいます。

役所とは、自分も感じる部分だが、決めるのにとにかく時間がかかります。

例えば、個人が家建てるのであれば数ヶ月で終わると思いますが、役所はなにか建てようとなると、まず地域の意見を聞いて基本構想作成し、再度意見を聞いて、さらにこまかな良い計画を作りましょうということで、実施設計を作り、そしてやっと実際に建て始める。

場合によっては3年ぐらにかかるともある。

なぜそうなるのかというと、税金を使っているため手順を踏んでいる。

今優先的に取組んでいるのは、学校の耐震化だとか、市民の命にかかわる部分だと思います。

また、福祉は誰もが必ず関わる部分で、子育てだったり、障がい者向け施策だったり、高齢者向け施策だったりします。

例えば生活保護の支給などは支給しなければならないものです。

一番力を入れているものは、特に東日本大震災の後からは命にかかわるところに力を入れています。

もちろん高齢者のみではなく、子どもたちが存在しないまちは滅んでしまいますので、そういう意味では、若い人たちに住んでもらうには、雇用の場が必要でありと施策には関連性があり、様々な施策は表裏一体になっています。

◎部会員

僕にとっての福祉のイメージは高齢者が対象。

お話の中にあつた市民の皆さんの意見を伺ってという部分は、失礼だけど年配の方たちが多い。

僕のできることは、今も大切だけど未来を考えたい。

また優先順位の話になってしまいますが、今を大切に過ぎると未来の投資ができない。

今を犠牲にしても未来への舵取りが必要だと思う。

高齢な方たちにも犠牲を払っていただいて、子どもたちに投資してほしい。

登別市民全体が、その様な未来への舵取りに共有していただければと思う。

◎副部会長

この部会に入りたいと思ったのは10数年前から男女平等参画社会づくりに参加していて、男女平等の基本とは、男の人も女の人も力を合わせて元気に生きられる、そのような社会をつくるというのが根本なのですが、そのような視点で見ると一番大切なまちづくりの部分に女性の意見が反映しているのかなと感じ参加しました。

次に、お二人の方から、議員の問題が出ましたが、私も元議員なのですが、今の議員を弁護するつもりはないが、全員がだめな議員というわけではなくて、頑張っている方もいらっしゃるでしょうし、また目先のことだけ考えている方もいるかもしれないし、一羽一絡げで見ないで、一票を投じた市民の義務として、きちっと議員に対し意見を言っていくのが必要なのかと思う。

ここ15年、20年くらい前から行政と市民の協働という言葉があるが、理念・概念がはっきりしていない。

このような委員会に参加して意見を言うことも大事ですし、地方自治とは市民が市長を選び、監視するために議員を選ぶですから、いろいろなところに意見をいう市民はいいと思う。

現実としては、総合計画があることを知らない市民は多いですし、登別市がどんな施策を進めようとしているのか関心がない、知らない市民は多い。

この委員会に入ったことを伝えると、「暇だね」と言われたが市民としてできることをやるというのが義務だと思っている。

市民協働ということが20年以上言われ続けているのに、このまちは未だにこういう感覚なんだと思う。

一人ひとりの市民の意見が、役所がパニックになるくらい寄せられなければならない。

どんなまちをこれから作っていくのかというと、私は3年前まで東京に住んでいましたが。

各市町が、例えば福祉を優先してまちづくりを進めるだとか、産業振興を優先してまちづくりを進めるですとか、まちづくりの根本となるものを持ってまちづくりをしている。

ところが第2期基本計画までは総花的であったと思っている、今度はなにか達成感を感じる何かを自分たちで作り上げていきたい。

自宅に帰ったら自分が所属する町内会や団体で波及できたらいいなという思いがある。

もう一つ、財源問題だが基本的に6章はお金がかかる内容は無いが、まちづ

くりの基本なので、お金の裏付けはどうなるのかという部分と、これから私達が政策を話す中で、ここにはこんなものがあった方がいいとなったときどうするのか、また財源確保を行政だけに任せていいのか

そのようなことに市民も関わっていく必要があるが、そのためには市民も勉強していく必要があると思う。

国の施策は常に変わっていくので、その時々重点施策により取組は変化していく。

今は耐震化などに補助金が厚く手配されているが、そのような情報を最初に手に入れるのは役所だと思う。

そのような情報を私達に提供してくれないと、論議を重ねても、絵に描いた餅になってしまうので、むなしいと思う。

そのようなことから資料をお願いしていきたいし、市の職員の皆さんも総務部門だけではなく、他のグループとも会話したり、研究したりしていきたい。

◎市庁内部会副会長兼事務局

今おっしゃっていたこともわかりますし、先ほどからお話を聞いていると、この場で何を話し合うかという事だと思います。

他の部会は福祉ですとか、観光ですとか、テーマを絞りやすい部会になっていますが、ここの部会だけはまちづくりという、姿の見えない理念を話していかなければならないのですが、まちづくりの根底となるものだと思います。

それでは具体的に何をやるのかという部分ですが、協働の指針をつくるという取組みがありまして、そのようなものを行政のみでつくってもうまくいくわけが無く、市民とともに作っていくことが大切なのだと思います。

市民とはどのような方なのかという事ですが、ここに来ている人も市民ですし、特に意見を伝えるわけではなく日々一生懸命頑張っている方も市民ですし、そこに上下はないと思います。

自分の親を考えても総合計画がどのようなものも知りませんので、それが普通のことだと思います。

このような会に参加していただける方たちに広がりが無ければ、まちづくりはうまくいかないと思います。

今回お配りしている資料につきましても、「もう資料ないよね」などと言われておりますが、行政と協議を行うこのような会では、往々にして求められてから資料を提出するというのが一般的ですが、今の時点で必要と感じる資料についてはすべて提供しています。

行政の職員にも同じ資料を提供し、同じ材料で同じテーマを同じ時期に考えるのが今回の手法です。

行政の委員会も様々な部局が集まり、週に2回ですとか、2時間以上の協議をするとか、毎日どこかの部会が開催されている状況です

ある程度、行政側でつくりこんで、「何か修正あったら言ってください」という手法ではありません。

これまで市民の方たちと協議を行った経験では、実現が困難なことを大きな声で言われることがあります。

その様な発言をされてしまうと、先に進まなくなります。

部会の開催にあたり、行政からの説明をしっかりとやっていきたいという思いが今回の手法にありますので、庁内検討部会の部会長、副部会長が必ず入り、行政の仕組みの話もしますし、ざっくばらんなお話もしていきたいと思えます。

なお、議員、議会の仕組みのお話は総合計画では触れられないので、ご意見としてお聞きしたいと思います。

また、道の駅のお話しに関しては、私も同様に感じています。

昨日の他の部会でも話題として出ておりましたが、苫小牧から室蘭まで道の駅が無く、観光の街なのにどうしてなんだろうということが言われます。

道の駅については、行政が建設をして民間にやってもらう手法が一般的ですし、国道でなくても道道でも設置ができます。

昨日の部会でのお話では、道の駅は良いが何を売るのだろうという会話になりました。

水産業の方がいらっしゃいましたので、前浜の魚について確認すると卸売の仕組みがあるから難しい、農業については酪農業の方がいらっしゃいましたので確認すると、牛乳は出せるけれども野菜と違い多く売れる商品ではない。

野菜であれば、各家庭での消費量も多く、道の駅は野菜が適しているということになりましたが、登別市では野菜がなかなか育たない現状がある。

そうなったら道の駅では何を売るのだろうとなってしまった。

道の駅の成功しているところだけ見ると、このまちにも欲しいなとなるんですが、失敗しているところも確認していくことが必要だと考えます。

◎部会員

現代の流通の発達した時代に売るものがないはずがない。

このまちの発展が遅れている一番の原因は温泉だと思う。

みんな温泉に気を使ってしまう。

市民が温泉からどのぐらい恩恵を受けているのかと思う。

安価な日帰り温泉が、一日遊べるようなところがあれば、市民がそこに行つて恩恵を受けることができる。

実際はその様なことはできない、道の駅についてもホテル内の売店の売り上げに影響が出るからできない。

登別のまちづくりが遅れたのは温泉のせいであって、どのように変えていくのか。

今回のまちづくりのテーマは「温泉を無視したまちづくり」だと思っている。もちろん極端な例だとは思いますが。

◎部会員

せっかく他のまちに誇れる登別温泉があるのに、このまちに住んでいる市民が満足できないのは、どういうことなんだろうかと思う。

◎部会員

市民が満足して、こんなにいい温泉だとなれば集客につながると思うし、他のまちの方にまちに温泉があつていいねと言われますが「行ったことないよ」と答えるしかない。不思議なまちだなと感じる。

◎部会員

私も他市の方に温泉にいつでも入れるのでしょと言われるけど、年に何回かしか行ったことがない。

◎部会員

会の進行についてですが、今後も行政の方も入ってきて部会は進んでいくのですか。

◎市庁内部会副部長兼事務局

もちろんです。事務局なので協議に参加しませんという対応は致しません。

◎部会員

書記に徹するという事はないのですか。

◎市庁内部会副部長兼事務局

書記は書記で参加させます。協議に参加する事務局もいます。

◎部会員

この対応で行政と市民の関係が一步進んだのかなと感じます。

今までは、委員の皆さんは委員の皆さんでやってください。行政はその結果

をまとめますからという対応でした。

このような対応は一切なく、初めから結論ありきという対応であった。

行政からの提案に否定をしても結論が変わるものではなかった。

◎部会員

まちづくりとは、どのように理解すればいいのだろうか、箱物を作るのがまちづくりなのか、人をつくるのがまちづくりなのか。

◎市庁内部会部会長

まちづくりについて最近懸念しているのは、市制施行で集まったメンバーがほとんど変わってなく、そのまま年を取っている。

新しいメンバーが参加していないというか、若い世代が参加してきていない。私たちが子どもだったころには、各種団体も町内会もだいたい40歳から50歳ぐらいの方が町内会長などを担っていたが、今は70歳を超える方が担っている。

コミュニティと言うか、つながりを担う世代が高年齢化されてしまい、このままだと地域関係のない方たちだけが残され、話し合いを持てるような関係性が維持されない。

ある意味都会化されるのかもしれないが、話しあったりすることが難しくなっている。

若い世代から自分が住むまちがこのまちをどうしようかという話し合えるつながり、基盤が維持できるのか、当たり前のようなものではあるが、とても大切なことだと感じている。

◎部会員

第1期基本計画を策定したころは、まちづくりについて、あまり重要性を理解しておらず「いいことだね」とただ感じていただけだったが、よく考えるとまちづくりとはなんなのかなと思う。

◎部会員

私もいろいろ考えてみて、自分の結論としてはひとつづくりなのだろうと思っている。

このようなご縁があって、こういった会議体の中に参画して、いろいろな価値観をぶつけ合い共有し合ったなかで、そういった中で自分が成長できるし、そういうメンバーができる。

逆に言うと自分が経験したものを、若い世代に降ろしていかなければならな

いと思っていますので、夏祭りの開催にも関わっていますが、できるだけ若い世代に任せてサポートに回りたいと考えている。

まちづくり、まちづくりと言っている人は大したことをしてなくて、汗水流して働いて税金を払っているのが立派なまちづくりへの参画の仕方の一つだと思っている。

私はたまたま、こうして参加できて発言ができていうだけで、自分だけがまちづくりに携わっていると言ったら大きな間違いだと思っている。

その様なことを考えながら、まちづくりの本質というものを考えていかないと、木で鼻をくくった結末になってしまうと思う。

◎市庁内部会副部長兼事務局

今回の委員会を立ち上げるときに、若い人に応募してもらって、すごくうれしかったです。

まちづくりに関する取組は、いつ見ても同じメンバーになってしまっていて、それだけこの様な話し合いに携わってくれる人が少ないのが実情です。

みんな働いていて、みんな忙しくて、家庭を持っていて、暇な人なんていないだと思います。

その様な中でもこういった場に出てきてくれて、一緒に何かをしようと、自分の考え方を何かに生かそうとしてくれることは大事なことであり、まちづくり、人づくりなんだろうと考える。

若い世代の方が同じような世代に声を変えてもらえればと思いますし、組織に所属しないところでまちづくりに携わる方が増えてほしいと思っています。

◎部会員

登別はまちづくり基本条例を作って、条例に従った協働のまちづくりが実現すれば素晴らしいまちになる。

言うのは簡単だが、なかなか実現できない、市民なのか行政なのか議会なのかそれぞれがバラバラで、集まって話したこともないが、最大の要因は議会だと思っている。

彼らは行政のチェックを担っているとの思いが強い、我々が認めなければならぬという思いが強い。

しかし、お願い事があれば議員を通さなくても、市民が直接行政を尋ねれば、行政がちゃんとやってくれる。

昔は議員を通さなければならなかった、そうだとすれば議員はこのまちをどうするか真剣に考えてくれる人間が、5、6人いればいいかもしれない。

地域のことは地域の町内会長が行政と連携して行い、市民と連絡調整してい

けばまちづくりが十分できる。

◎部会員

議員の定数を変えるというのは、なかなかむずかしい問題だけど、参画して
くるというのはすごく大事なことで、選挙の時だけお願いするけど。

それ以外は雲の上にいて、別世界の人のようだ。

こんなことがあったのですが、ある議員がある団体のことを質問した時に、
会員数何名ですかと議会で質問しました。

議会で質問しなくても、団体に電話して会員何名ですかと聞けば済むことで
あって、議会で言うことじゃない。

そういう人が当選してしまうのが現実なんです。

◎副部長

その議員は無駄な時間と税金を使うなと思うが、どんな質問であっても市の
職員が却下する権利は残念ながらない。

市民が声を上げていくしかない。

◎部会委員

もっと議会の人たちがまちづくりを考えたらこんなに停滞はしないと思う。

◎市庁内部会副部長兼事務局

協働という言葉をよく使うが、難しい言い方をしなくてもそれぞれの責任を
しっかり果たすことで、相手からがんばっていると思われることが協働なんだ
と思う。

例えば議員さんにしても、「議員さんて大変だね」あれだけやってくれると、
尊敬される。

役所の人間も「すごく頑張ってくれてるんだな」と尊敬される、市民の方も
市民活動の中で一生懸命まちづくりに携わって、「ボランティアなのに大変だな」
とみんなから尊敬される。

お互いの尊敬が無い中で、協働はないと思っているし、いがみ合っていれ
ば協働は進まない。

それぞれが一生懸命頑張ってやらなければならないというのが協働の根幹だ
と思う。

◎部会員

市に要望すれば金がない、金がないのをどうすればという代案があれば良い、

やってくれやってくれではなくて話し合う、そういうのがまちづくりだと思う。

◎市庁内部会部会長

確かに財政は厳しいのですが、箱物だけを作ってもまちは変わらない。

若者の活気があるですとか、起業をしようですとか、そのようなバイタリティみたいな空気が失われてきている。

◎部会員

それはどうしたら作れるのでしょうか。

◎市庁内部会部会長

いろいろなイベントがあるが、イベントを成功させるためのイベントではなくて、人が集まることに価値がある。

先ほどでてきた道の駅を議題にしてもいいと思います。

一人ひとりがアイデア出し合って、活気を作っていないと、行政がいくら旗を振ってもやはり限界がある。

なにも思いがないところに行政が力を入れても意味が無いものになってしまう。

◎部会員

役所や議員がやってくれないという話はよく聞く話ですが、人のせいにするのは簡単で、まず自分が変わることに。

私たち若い世代でいえば、政治に無関心で、役所のやっていることは知りません。

まず自分たちの世代では、そういうものに興味を持ってひとりずつ増やしていく。

自分が変わっていないと相手も変わらないのではないかなと思います。

◎部会員

今を犠牲にしても未来にお金をかける、そのような考え方を持つと結構面白いことが考えられる。

今あるものを未来にどう活用するか、例えば札内などは最高の場所だと思う。あそこを美瑛のように花畑にすれば人が集まると思う。

鉱山から大滝のほうに抜ける道路ができれば、また違う人間が訪れることとなる。このまちに宝物はたくさん埋まっている。

さらに、子供ひとり産めば100万あげます、2人200万、3人300万

とすれば、絶対に移住者は増える。
ユニークな政策が実現できないか。

◎部会員

未来像が無い、若い人にお金をかけて、その子の未来が自分たちの財産になるんだと見せてあげたら、そのような意見は出ないのではないか。

◎部会長

約束したお時間になりましたので、ここあたりで終わりたいと思います。

次回の開催についてですが、6月5日（木）18時30分、6月19日（木）にしたいと思います。

場所については、事務局のほうから出欠確認を含めてお願いします。

以上で終了します。